

## 市民と行政による協働のまちづくりを目指す

### ～登別市まちづくり基本条例検討委員会が提言書を提出～

7月27日(木)、登別市まちづくり基本条例検討委員会のメンバーが市役所を訪れ、小笠原春一委員長から上野市長に『登別市まちづくり基本条例』の提言書が手渡されました。

同条例は、市民と行政が協働して登別市のまちづくりを進めるため、その基本となる理念や行政への市民参画の権利など市民と行政の仕組みを定めるものです。

同委員会は公募の市民と市職員のほか、オブザーバー参加の市内専門学校を学生を加えた42人をメンバーとして昨年6月に発足。以来、約1年間にわたり、19回の全体会議や42回のワーキングを開くなど、条例の素案作りに取り組んできました。

提言書は、条例の素案とこれまで開かれた全体会議の議事録からなり、素案には市民・行政・議会の役割を明確にし、市民が市民の意志でまちづくりに参画できる権利や市民と行政のあり方などを検討する機関の設置の規定が盛り込まれています。

市は、今回の提言を受け、年度内に制定、平成17年4月施行を目指して、議会との調整や条例案について市民の意見を求めるなどの作業を進めます。



▲上野市長に提言書を手渡す小笠原春一委員長

## 今日から私もリサイクル宣言!! ～リサイクルまつり'04イン登別・白老～



▲ペットボトルを利用した風車作り

7月25日(日)、クリンクルセンターで登別市と白老町が主催する『リサイクルまつり'04イン登別・白老』が開かれました。

今回のまつりのテーマは『今日から私もリサイクル宣言!!』。会場にはフリーマーケットや洗剤を使わないふきんなどの販売など多彩なコーナーが並び、中でもペットボトルを利用した風車作り、廃食油を使ったカラフルなローソクづくりなどの体験コーナーが子どもたちの人気を集めていました。

また、今回は缶・びん選別の現場を見学し、スタンプをもらった方への堆肥のプレゼントや、ペットボトルのキャップ5個を持参すると入場できる『エアドーム』など、環境意識の向上を図る工夫もあり、参加者は多彩な企画を楽しみながらリサイクルの大切さを実感していました。

## 上手に作ったよ ～夏休み工作教室～

7月28日(木)・29日(金)の2日間、文化伝承館で毎年恒例の『夏休み工作教室』が開かれました。

今年は幼児から小学生とその保護者約50人が参加し、郷土資料館ボランティアグループSLGの指導を受けながら『グライダー』や『パンパカパーン』、『万華鏡』、『竹コブター』作りに挑戦しました。

子どもたちは、普段使い慣れていない工具での作業に悪戦苦闘。一人で完成させる子や保護者に手伝ってもらいながら完成させる子などさまざまでしたが、完成後はみんな満足顔で手作りの作品で遊んでいました。



▲竹をくるくる回すと音がでる『パンパカパーン』作り